

(日本語版)

第2回 コンビナトリアル・バイオエンジニアリング国際会議

(ヒューマンライフサイエンスフォーラム)

10月20日(木) 大阪、インテックス大阪

10:30-10:35

開会の辞

植田充美(京都大学)

10:35-11:00

リガンドとレセプターを同時に提示する酵母を用いる新規薬剤スクリーニングシステム

黒田俊一(大阪大学) // 座長 福崎英一郎(阪大)

11:00-11:25

新しい乳酸細胞表面提示法の展開と応用

成文喜(バイオリダーズ、韓国) // 座長 加藤倫子(京大)

11:25-11:50

コンビバイオによる受容体標的医薬の分子設計

藤井郁雄(大阪府立大) // 座長 津本浩平(東大)

11:50-12:15

エンブリオアレイによる新しい創薬科学へのアプローチ

田丸浩(三重大学) // 座長 吉田和哉(奈良先端大)

12:15-12:40

ファージ表面提示法による医薬価値に優れた機能性人工蛋白質の創出

角田慎一、鎌田春彦、堤 康央(医薬基盤研) // 座長 二木史朗(京大)

14:00-14:25

ナノデバイスおよび細胞チップを用いる創薬およびプロテオーム研究への応用

民谷栄一(北陸先端大) // 座長 中野秀雄(名古屋大)

14:25-14:55

各種足場タンパク質のファージ提示によるシグナルソームのターゲティング

Peter Kristensen(デンマーク) // 座長 上田宏(東大)

14:55-15:25

コンビナトリアルバイオエンジニアリングにおけるスタフィロコッカス属を用いた細胞表面提示

Stefan Stahl(スウェーデン) // 座長 近藤昭彦(神戸大)

15:25-15:55

Anchored Periplasmic Expression (APEX):ペリプラズム空間：  
蛋白質提示法を用いた抗体工学とプロテオーム解析への応用

George Georgiou (アメリカ) // 座長 河原崎泰昌 (名古屋大)

15:55-16:25

化学-生物-医学インターフェイスにおけるコンビバイオの可能性

Kim D. Janda (アメリカ) // 座長 藤井郁雄 (大阪府大)

16:26-16:30

閉会の辞

近藤昭彦 (神戸大)